



まなびや

東市ヶ尾



内から育つ — 日々の小さな積み重ねを —

校長 後明 好美

4月、プロゴルファー 松山英樹選手がマスターズ・トーナメントを制覇したニュースが飛び込んできました。日本のスポーツ選手が世界レベルで活躍する時代になったと、改めて思います。

大坂なおみ選手がグランドスラム通算4勝目となる全豪オープンテニスをまたもや制したという昨年度末のニュースも、まだ皆さんの記憶に新しいところではないでしょうか。

### 大坂なおみ選手 2度目の全豪オープンテニス制覇から

試合やトレーニングのために世界中を駆け巡り、流暢な英語を操ったインタビューでの謙虚でチャーミングな人柄が世界に評価されている大坂選手は、人権意識も高く、全米OPで毅然とした姿を各試合の前に見せたことで、さらに有名になりました。彼女は国という枠にとらわれない「国際人」なのだと思います。近い将来、本校の子どもたちも、大坂選手のように世界をフィールドとして自分の力を発揮するようになるのだらうと、楽しみになっています。

大坂選手の2度目になる全豪制覇は、フィジカル面、テクニカル面での鍛錬や熟達だけでなく、「こころを開く」という精神面での成長も影響していることが、報道で取り上げられました。

たった一人でコートに立ち、さまざまな思いやプレッシャーに打ち克ってプレーを続けるメンタルの強さは、日々のトレーニングや数々のトーナメントへの参戦という実戦の場での鍛錬だけでなく、普段の生活でも自身をコントロールする大切さを意識して過ごし、培われたものなのではないでしょうか。だからこそ、2年前の王者というプレッシャーに負けず、自分のテニスを貫き、一つひとつ着実に勝ち切ったの優勝となったのだと思います。精神面での内なる強さが、フィジカル面、テクニカル面の強さと三位一体となって、素晴らしい結果へとつながったのだととらえています。

### 「はい。」という返事から 成長できること

話は変わりますが、この学校に赴任して、「素敵だな。」と思うことが多くありますので、ここでその一つを御紹介します。本校の子どもたちは、運動会や周年行事の役割等で名前を呼ばれたときに、「はい。」としっかり返事ができるところです。当たり前のように感じますが、返事をしっかりできるということは実はとてもすごいことだと私は思います。

大勢の前で大きな声で返事をするには、緊張を伴うことでしょう。緊張に負けて「小さな声でもよいのでは・・・。」と、逃げてしまう自分が顔を出すこともあるでしょう。でも、そのちょっとした緊張に打ち克つしなやかな心をもっている子どもたち、素晴らしいと思います。

「はい！」と返事をするのに費やされる時間は、ほんの数秒です。しかし、返事をしっかりとしようと決め、自分の名前を呼ばれたときのことをイメージし、そして最後は必ずやり遂げようと自分の心に強く決めて実行する経験の繰り返しが、子どもたちには大切なように思っています。少しのプレッシャーに打ち克つ経験の積み重ねが、自分に自信をもつ契機となり、子どもたちの内にしっかりとした『芯』を育むことになると考えるからです。そしてその『芯』が、大坂選手や松山選手のように、将来必要な場面で、子どもたち一人ひとりの大きな飛躍を内からしっかりと支えることになるのではないかと考えています。

選手たちの素晴らしいプレーと大きな飛躍を支えたメンタルの強さから、学校教育で大切なものの一つについても考えることができたニュースでした。

5月もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。